

令和2年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 （地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業）
 成果報告書

団 体 名	東海市	
施 設 名	東海市芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	21,015	(千円)
公 演 事 業	6,820	(千円)
人 材 養 成 事 業	8,679	(千円)
普 及 啓 発 事 業	5,516	(千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	開館5周年記念公演 名フィル・オペラ・ガラコンサート事業	2020年9月6日	角田鋼亮※、天羽明恵、田崎尚美、加納悦子、上原正敏、大山大輔、北川辰彦、名古屋フィルハーモニー交響楽団ほか	目標値	750
		東海市芸術劇場大ホール		実績値	359
2	東日本大震災から10年 新日本フィルハーモニー交響楽団 思う心のコンサート	2021年3月6日	井上道義※、崔文洙、新日本フィルハーモニー交響楽団、東海市子どものオーケストラ（プレコンサート）	目標値	800
		東海市芸術劇場大ホール		実績値	470

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	※東海市子どものオーケストラ事業	通年	講師:名古屋フィルハーモニー交響楽団楽員等	目標値	120
		各練習室		実績値	125
2	※東海児童合唱団事業	通年	講師 磯部和恵(合唱指揮)、加藤久美子又は新村茜(伴奏)	目標値	135
		各練習室		実績値	133

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	0歳からのコンサート	2021年2月27日	松村秀明、名古屋フィルハーモニー交響楽団、佐藤有沙(チェロ独奏)	目標値	740
		東海市芸術劇場大ホール		実績値	482※
2	おんがくさん はじめてコンサート	年6回(事業中止)	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	600
		市内6保育園		実績値	—※
3	出会いの教室	2020年9月～ 2021年3月	出演：名古屋フィルハーモニー交響楽団楽員等	目標値	1,200
		市内12小学校		実績値	1,153
4	劇場招待コンサート	2020年12月2日、 2021年2月26日	川瀬賢太郎、松村秀明、名古屋フィルハーモニー交響楽団、瀬木理央、佐藤有沙	目標値	2,350
		東海市芸術劇場大ホール		実績値	2,240※
5	ふれあいコンサート	年4回(事業中止)	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	300
		市内福祉施設等		実績値	—※
6	嚶鳴サロンコンサート	2020年9月6日、 2021年2月21日	9/6: 崔 文洙、野田清隆、2/21: 井葉野晃暢、佐々木杏子	目標値	360
		東海市芸術劇場交流広場 (パブリックスペース)※		実績値	180

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

東海市芸術劇場が掲げる最も重要な使命（ミッション）は「ひとづくり」である。「ひとづくり」は、本市の財産である市民をさらに心豊かで個性的な人材へと導き、それがまちづくりへとつながり、まちに「にぎわい」をもたらす。そのような気運の中でこそ、より多くの人々が心を開き、文化芸術に関心を向けやすくなり、「生きがい」となるような新しい“こと”や“もの”に出会う可能性が生まれ、これら「ひとづくり」の成果がより高い次元の「文化創造」へとつながっていく。このことから、「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいづくり」という三つの柱を理念に掲げ、活力を持った「まち」であり続けられるよう事業を展開し、運営等に取り組んでいる。

【公演事業】 公演事業として実施した2つの事業では、いずれも、新型コロナウイルス感染拡大に伴う渡航規制により、当初予定していた指揮者の来日が困難となったため指揮者を変更し、入場者に対するアルコール消毒液による手指消毒や客席でのマスク着用の周知、舞台と客席との距離の確保や一席空けの客席の配置等、時期に応じた感染防止対策を講じたうえで実施し、多くの市民が良質な文化芸術に親しむきっかけづくりとして機能した。

【人材養成事業】 東海市子どものオーケストラ事業では、楽器を所有していない子どもでも参加できるよう楽器を貸し出しも行っており、未経験者から経験者まで広く誰でも参加でき、子どもたちが早期に文化芸術に触れる環境を整備している。人材養成事業として実施した子どものオーケストラ事業及び東海児童合唱団事業では、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、それぞれ8月に予定していた合宿を取り止めた。また、少人数に分かれて練習を行う等の感染予防対策を講じながら、多くの人々と協力して創り上げる活動を通じて、子どもたちの社会性を養う「ひとづくり」や「生きがいづくり」の場として機能した。

【普及啓発事業】 普及啓発事業として実施した0歳から誰もが入場可能なオーケストラ公演、市内全小学4年生へのアウトリーチ、市内全小学5年生及び市内全中学2年生への招待コンサート、全ての世代への無料ロビーコンサートでは、時期に応じた感染予防対策を講じながら実施した。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、保育園でのアウトリーチ等をやむを得ず中止したが、実施した事業においては、成長過程に応じた公演・アウトリーチ事業を行うことができた。単発的な事業として終わることなく、長期的・継続的・発展的な事業展開を行うことで、文化芸術活動を通じた「ひとづくり」や「にぎわいづくり」の一助となっている。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

【公演事業】

より高い次元の文化芸術を通じた次代を担う心豊かなひとづくり

市民にとって、徐々にオーケストラが身近な存在になっていることから、より質の高い実演芸術を体験することで、実演芸術の水準向上とより高い次元の文化芸術を通じた次代を担う心豊かなひとづくりを目指している。

【人材養成事業】

子どもたちが広く誰でも早期に文化芸術に触れる環境、文化芸術活動に継続的に取り組むことができる場づくり

文化芸術活動を通じて子どもたちの自主性・協調性・社会性を養うひとづくりへつなげ、子どものオーケストラや児童合唱団などが定期的に演奏することで市民が実演芸術に触れる機会となり、芸術文化に対する興味関心を高めることで、芸術劇場を中心とした心豊かで生きがいのあるまちづくり・地域活性化に繋げる。

【普及啓発事業】

事業全体を単発的な事業に終わらせず、長期的・継続的・発展的な事業展開を行う

0歳からのコンサート（未就園児親子等）、出会いの教室（小4）、劇場招待コンサート（小5・中2）、囀鳴サロンコンサート（全ての世代）という継続的・発展的な事業展開を行ったことで、子どもたちの文化芸術に関する興味関心を育み、実践していく心豊かな市民が育つ土壌の形成に繋げる。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】

目 標

・より質の高い実演芸術を体験することで、実演芸術の水準向上とより高い次元の文化芸術を通じた次代を担う心豊かなひとづくり

自己評価

開館5周年記念公演では、劇場が運営する子どものオーケストラの演奏出演や市民合唱団・児童合唱団の合唱出演により、間近でプロの音楽家やオーケストラの演奏に接し、質の高い舞台芸術の経験を得ることで、団としても団員としても、更なる質の向上を図る一助となった。また、被災した釜石市と縁のある本市で、東日本大震災から10年をテーマに公演を実施することで、本市における防災意識の向上、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を形成するきっかけづくりとなった。公演アンケートの結果から、多くの方に本事業を支持していただけており、心豊かで生きがいのあるまちづくりに向けて、地域全体で取り組む意識が醸成されてきている。

【人材養成事業】

目 標

・子どもたちが広く誰でも早期に文化芸術に触れる環境、文化芸術活動に継続的に取り組むことができる場づくり

・子どもたちの社会性を養うひとづくり

自己評価

多くの人が協力して一つの音楽を創り上げる児童合唱団及びオーケストラの活動を通じて、本事業の目的である「ひとづくり」を行うことができた。また、公演アンケートから「子どものオーケストラを地域で応援したいと思う・やや思う」が約96%、その他にも将来を期待する声が多く寄せられ、多くの方に本事業を支持していただけており、心豊かで生きがいのあるまちづくりに向けて、地域全体で取り組む意識が醸成されてきている。

【普及啓発事業】

目 標

・事業全体を単発的な事業に終わらせず、長期的・継続的・発展的な事業展開を行う

・戦略的に持続的な活力を持ったまちづくり・地方創生の実現へとつなげる

自己評価

0歳からのコンサートは、0歳から親子（もしくは3世代）そろってオーケストラに触れる機会、障がい者が鑑賞できる機会、心のバリアフリーコンサートを通して相互に尊重し合い多様性を受け入れることができる社会の土壌を形成する一つの機会とすることができた。

小学4年生へのアウトリーチ事業は、優れた実演芸術に触れることで、豊かな感性を刺激し、音楽・楽器演奏に対する興味づくりや、文化芸術活動に参加するためのきっかけづくりに結びついている。

劇場招待コンサートでは、来場した児童及び生徒の40～50%が「今後楽器の演奏に取り組んでみたい」と回答しており、音楽鑑賞体験を共有したことにより、オーケストラや音楽に対する興味を持つきっかけづくりにもつながった。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により市の文化施設を臨時閉館したため、年度は参考数値ではあるが、昨年度までは市の文化施設で行われる文化・芸術事業への参加者数も増加傾向で推移しており、心豊かな活力ある市民が増え、にぎわい・生きがいのあるまち、地方創生に向けて、着実に進展している。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業】

事業期間

助成事業期間については、当初の予定通り進んだ。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2つの事業とも、渡航規制に伴い来日が困難となり指揮者の変更を余儀なくされた。

入場者数は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い国等から示されたガイドラインに基づき、舞台と客席との距離の確保等の対策を講じて実施することになり、有効席数を約50%にして開催することとなった。

事業費

事業費については、指揮者変更に伴う出演料及び旅費の減額が生じたこと等により、当初の計画より支出額が少なくなった。

【人材養成事業】

事業期間

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため劇場が臨時休館となったことから、5月までの期間は、予定していた練習や説明会等を中止したものの、以降については、概ね当初の予定通り進んだ。

助成を受けることができた結果、8月に予定していた合宿を強化練習等に振り替え、年間を通じて練習することができた。

東海市子どものオーケストラは、年間を通じた練習では、密集を避けるためパート毎に部屋を分散し実施しながら、精いっぱい練習に励み第2回定期演奏会を実施することができた。定員は、国等のガイドラインに基づき有効席数を約50%に設定することになった。また、東海児童合唱団は、定期演奏会を予定していたが、団員が密集することを避けるため全員揃って練習することができなかつたこと等から、限られた中で懸命に練習し、内容を見直したうえでコンサートとして実施した。定員は、客席で5席ごとに間を一席空けるよう設定した。

どちらの事業も、公演アンケートから「公演内容に満足した」という回答が多く寄せられ、多くの方に本事業を支持していただけており、心豊かで生きがいあるまちづくりに向けて、地域全体で取り組む意識の醸成が強く感じられるとともに、子どものオーケストラや児童合唱団への関心が高まっている表れであると推測できる。

事業費

練習等についての事業費は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための練習中止にともない、5月分までの講師謝礼及び旅費及び公演プログラムの変更等に伴う出演料及び旅費等が不用となった。また、合宿における楽器運搬に係る費用や有料道路通行料も不要となったため、当初の計画より支出額が少なくなった。

【普及啓発事業】

事業期間

助成対象事業全体を通じて成長過程に応じた公演・アウトリーチ事業を実施することで、単発的な事業に終わらせないよう、継続的・長期的・発展的な事業展開を行うために、新型コロナウイルス感染予防対策を時期に応じて工夫しながら、慎重に小中学校と調整を行った結果、概ね予定通り実施することができた。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、おんがくさん はじめてコンサートやふれあいコンサートは中止となった。

事業費

無料や安価な入場料金設定とすることで、気軽に音楽に触れる機会を提供し、家族で文化芸術に親しむ機会を提供した。0歳からのコンサートと劇場招待コンサートを連続した2日間で開催したことで、出演料や楽器運搬に係る必要が想定を下回ったこと及びふれあいコンサート等の中止にともない、当初の計画より支出額が少なくなった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【公演事業】

公演事業としては、下記の2点が挙げられる。

- ・今回、本格的なオーケストラによる初めてのオペラ公演を開催するに当たり、プログラムへの解説掲載等を行い、誰もが鑑賞・理解しやすい公演となるよう努めた。
- ・劇場が運営する子どものオーケストラの演奏出演や市民合唱団・児童合唱団の合唱出演により、間近でプロの声楽家やオーケストラの演奏に接し、質の高い舞台芸術の経験を得ることで、団としても団員としても、更なる質の向上を図る一助となった。

【人材養成事業】

東海市子どものオーケストラ事業の特徴としては、下記の3点が挙げられる。

- ・参加を希望する児童・生徒に、楽器を無償貸与し、経験の有無・貧富の差を問わず、誰もが高度な文化芸術活動へチャレンジできる環境を形成している。
- ・ひとつづくりパートナーシップ協定を活用し、東海地方を代表するオーケストラである名古屋フィルハーモニー交響楽団楽員による質の高い指導を行う。
- ・東海市子どものオーケストラ育成基金を設立し、寄附を地域の個人・企業・団体等から受けることでオーケストラの活動の幅を拡大。地域で子どもたちを支える仕組み・環境を整備した（ふるさと納税制度のメニューとしても活用）。

東海児童合唱団事業の特徴としては、下記の2点が挙げられる。

- ・杉並児童合唱団を中心に全国の児童合唱団で組織する杉並会議に加盟しており、質の高い指導を受ける、全国の児童合唱団との交流を行うことで、子どもたちに様々な体験を得られる環境を整備している。
 - ・年少児から大学生が在籍し、普段のレッスンから演奏会の舞台袖の動きなど保護者ではなく上級生が下級生を教える環境があり、合唱だけでなく挨拶や礼儀など社会性を身につけることができる環境にある。
- これらのことから、本事業は、多くの人々と協力して創り上げる活動を通じ、子どもたちの社会性・地域性を養い、未来を創造し支えていく心豊かなひとつづくり及びまちづくりに大きく貢献していると認識している。

【普及啓発事業】

助成対象事業全体を通じて、成長過程に応じた公演・アウトリーチ事業を実施することで、単発的な事業に終わらせないように、継続的・長期的・発展的な事業展開を行っている。

助成対象事業の主な特徴は下記のとおりである。

- ・0歳から入場可能なオーケストラ公演を提供することで、本市における音楽鑑賞の対象年齢を下げ、通常のクラシック公演におけるルールやマナーを気にせず、誰もが鑑賞できる心のバリアフリー公演として、チラシ・プログラム・会場内の掲示物などに記載し、幅広く気軽に鑑賞できる場としている。
- ・多くの未就学児・乳幼児が来場するため、授乳室・オムツ替え・ベビーカースペースの拡充など、安心して来館・鑑賞できる環境を整備し、普段敬遠しがちな方・家族でも鑑賞しやすい公演として環境を整備している。
- ・小学校へのアウトリーチでは、学校と事前打ち合わせを行い、児童が学習している曲目等を演奏曲に取り入れることで、児童の関心をより引き出すよう工夫している。
- ・プロの実演家との交流を行った翌年度に、教室でなくホールで鑑賞する機会を提供し、音楽への興味をより強くさせる。また、オーケストラの醍醐味を体感することで自らの活動意欲をかきたてることにつながる。
- ・パブリックスペースで無料のロビーコンサートを実施することで、気軽に音楽に触れる機会を提供し、また、劇場に別用（音楽以外も含む）で来館した利用者にも質の高い音楽鑑賞の機会となり、広く市民へ感動を伝えることに繋がっている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

東海市は、「公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団」及び「吉本興業株式会社」との間に「東海市ひとづくりパートナーシップ協定」を結び、市と両団体の双方が互いの利点を活かし、連携することで、市民に質の高い文化芸術を鑑賞する機会を提供し、さらには文化芸術活動を通してのひとづくりや地域活性化に取り組んでいる。

助成対象事業では、名古屋フィルハーモニー交響楽団やその楽員、吉本興業所属の芸人が出演することにより、質の高い文化芸術事業を展開し、もって東海市が目標とする「文化芸術を愛し、心輝く市民が育つまち」を基本理念としたひとづくり、まちづくりの推進につなげている。

【公演事業】

平成30年度以降、毎年オペラ入門編となるべき公演を実施し、今年度、実施するに当たり、プログラムへの解説掲載等、誰もが鑑賞しやすい公演の実現を目指した結果、来場者の96%から「満足・やや満足」という回答があり、これまでの普及啓発的な事業展開が、着実に市民の意識の向上に結びついている。

また、多くの市民がプロの演奏家による公演を鑑賞する機会を得たことにより、オーケストラを始め文化芸術全般に対する興味をもつきっかけづくりとなっていることから、引き続き、芸術劇場を中心として、良質な文化芸術を提供し、文化芸術活動への参加意欲の向上、地域の文化芸術の発展につなげている。

【人材養成事業】

東海市子どものオーケストラ事業及び東海児童合唱団事業は、いずれも若い世代が文化芸術活動に継続的に取り組むことができる場づくりが課題であり、次代の文化芸術を担う人材育成のニーズが高いことから、子どもたち自らが主体となり文化芸術活動に取り組める場としてのオーケストラ及び児童合唱団を育成することで、次代の文化芸術を担い、本市の未来を担うひとづくりを目的として実施している。また、多くの人々が協力して創りあげる各活動を通じて、子どもたちの社会性を養うひとづくりを行うことで心豊かで生きがいのあるまちづくりの推進につなげている。

東海市子どものオーケストラ第2回定期演奏会の来場者アンケートからは、「子どものオーケストラを地域で応援したいと思う・やや思う」が約96%、また、東海児童合唱団 Winter Concert の来場者アンケートからは、「公演内容に満足した」が約90%寄せられたことから、いずれの事業も多くの方から支持されており、練習場所や時間等に制限がある中で精一杯練習に励んだ子どもたちに対する期待とともに、心豊かで生きがいのあるまちづくりに向けて地域全体で取り組むという意識が醸成されてきている。地域の中核劇場として様々な事業を実施したことで、市民の評価が向上しており、地域の文化芸術の発展につながっていると認められる。

【普及啓発事業】

本市には、アマチュアオーケストラさえない環境であったため、オーケストラ鑑賞に親しむ市民が少なく、さらに0歳から親子（もしくは3世代）そろってオーケストラに触れる機会・障がい者が鑑賞できる機会がほとんど無かったことから、心のバリアフリーコンサートとして、0歳から入場可能なオーケストラ公演を提供することで、本市における音楽鑑賞の対象年齢を下げることで、家庭に引きこもりがちな子育て世代の外出を促し、誰もが家族で音楽を通じたコミュニケーションが図られ、家庭からまちへ交流が広がることを目的として、事業を実施している。また、本市は、子ども向けの文化芸術に関する鑑賞・体験プログラムの充実が課題であり、次代の文化芸術を担う人材育成のニーズが高いことが示されていることから、早期から質の高い文化芸術に触れる機会を成長に合わせ段階的に設け、本市の子どもたちへの音楽・楽器演奏に対する興味づくりや、様々な文化芸術活動へ取り組む意欲を高めることを目的として実施している。

本事業をはじめ様々な事業を市内各所で幅広く実施したことで、市民アンケートから、文化活動が盛んなまちだと思ふ市民の割合が基準値53.6%に対し速報値61.8%（昨年度は65.2%）と高水準で推移しており、継続的な地域の文化芸術の発展につながっていると認められる。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

下記のとおり、人材面・財政面ともに、持続的に発展することができる組織を構築するための取り組みを行っている。

【運営】

市の直営方式を用いている。目的の明確化、安定的な財源の確保・運営、地域の実情を把握した事業展開、文化芸術の持つ固有の意義と価値を観光、福祉、教育、産業振興等と有機的に連携した事業展開を行うことが可能である。組織、管理運営及びプログラムの企画・推進は、専門性を備え、施設の責任者である館長、芸術総監督が中心になって行う。その上で、運営のさまざまな場面において、市民の意見を吸収しながら、行政と市民が連携・協働・共創し、事業展開を行っている。

【ボランティア組織】

公募により市民スタッフを組織し、レセプションистとしての参加や企画・制作に参加することにより事業運営をサポートしている。市民スタッフが活躍することは、参加する市民にとっての誇りや生きがいを創出するとともに、市民がスタッフとして事業・運営へ参加していることを認識されることで、市民全体にとっても、施設や文化芸術を身近なものとして感じることができるという効果につながっている。

一定期間、運営をサポートし、最終的には、実力を持った組織となった後に自立し、芸術劇場の顔の一つになることを目標としている。

より多くの市民が芸術劇場の事業や運営に参加し、交流や理解へのきっかけづくりができるよう、継続的に活動に参加することが難しい市民でも、気軽に参加できる仕組みや機会を設けている。

【友の会組織】

友の会組織「ユウナルフレンドメンバーズ」があり、令和2年度の会員数は前年度比252名増の約6,300名となっている。

【子どものオーケストラ育成基金】

基金を設立し、寄附を地域の個人、団体、企業等から受けることで、地域全体で子どものオーケストラを応援・支えていく仕組みや環境を整備している（ふるさと納税制度のメニューとしても活用）。

